

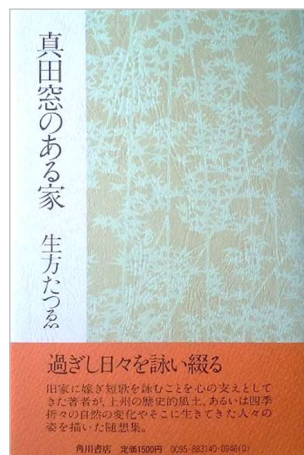
今月のみことば 2025年4月

風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこから来て、どこに行くのかを知らない。霊(神)から生まれた者もみな、それと同じである。

(ヨハネの福音書3章8節 フランシスコ会訳)

本の紹介シリーズ 真田窓のある家 生方たつゑ著 / 角川書店

江戸時代に東庵という伝道者がいました。彼は宗門調べの迫る天草より、関東北部に伝道の地があると指示を受け、足尾銅山に向かいます。南蛮より授けられた医術、薬種、冶金術、造酒、煙草栽培等の技術を持つ東庵は、足尾では銅を取り出す仕事に携わり、鉱山の荒くれ者たちに信仰を伝えます。その後、彼は次の宣教地として上州川場村に向かいます。途中の峠にある村では、発育不良でひ弱な子どもに薬を与えたのをきっかけに、素直に信仰を持つ村人に作り方を教え、根利奇応丸という薬が近村に広がっていきました。次の村では、東庵の教えを受け入れた村人にクリスマスの祝日を教え、ついに東庵は川場村に到着します。吉祥寺という寺院に身を落ち着けて、煙草栽培や酒の醸造を教え、村は豊かになります。同時に宣教の働きで信者が増えていきました。東庵自身が身を寄せていた八右衛門の娘“てこ”と結婚し、3人の娘が生まれました。その頃、キリシタン弾圧の政策がとられ、東庵探索令が出されたため、東庵は行方を隠しました。村内に嫁いだ次女“おま”、戸鹿野村に嫁いだ三女“満里”は捕えられ、江戸のキリシタン屋敷に移されました。棄教を迫られるのを拒んで30年間幽閉されます。ようやく釈放されて満里が郷里に帰った時に、夫は再婚しており、戸鹿野村に一人住まいをし、川場村に葬られたということです。沼田地方は隠れキリシタンの里であった、と言う人がいます。



東庵は宣教のために上州川場村に派遣されました。史跡、公文書、海外に報告された資料があります。生方たつゑ氏は丹念に東庵の足跡を辿り、「真田窓のある家」の中で「奥利根のかくれキリシタン」について記しています。栃木と群馬の境にある青木村では、お正月に十字の形をした木を屋根の上に投げ上げる風習が残っています。川場村には隠れキリシタンの墓(東庵の娘婿の名が記されている)があり、周辺のお寺に子育て観音(マリア像)や街道にも子育て地蔵が残されています。沼田の由緒ある薬屋(生方たつゑの嫁ぎ先)には、同じようなマリア像、子育て観音があったということです。キリシタン禁令の迫害下であるのに、江戸と沼田で66名が洗礼を受けたという報告書が残され、「吉利支丹宗門吟味覚書」には、東庵とその家族、沼田地域の信者の記録が記されています。また、(東庵の三女の住んでいた)戸鹿野村には、明治時代に著名な星野家があります。戸鹿野村から横浜へ出て、生糸貿易をしていた星野宗七の末娘“あい”は、津田塾創設者である津田梅子の次期学長となり、沼田の名誉市民です。沼田教会(付属恵泉幼稚園)は、横浜の宣教師バラによってクリスチャンとなった兄の光多とあいが出資して建設され、今も沼田市重要文化財として保存されています。その恵泉幼稚園を卒園し、卒園記念の聖書に触れ、後に信仰に導かれた筆者はこの本により、沼田地域には400年前の東庵から始まる神様の働きがあったことに思いを馳せました。

神様は目に見えないお方ですが、霊によって生まれた信仰者の存在によって、今も生きて働いておられる神様を知ることができます。(T)